

企業原点

お客様のお役に立ちたい

経営理念

私達は誠実に一致協力してお客様のお役に立つ企業を目指し
常に「ありがとう」といわれる仕事を続けます

1. 企業の永続した発展を目指し社員の幸福を実現します。
1. お客様、取引先との共存共栄で相互の繁栄を築きます。
1. 社会への貢献と、より良い社会づくりを目指します。

私達は、経営理念を実現するため、品質方針を定め全社一丸となって
実行いたします。

品質方針

1. 総合経営品質(企業活動全ての質)の強化で、サンコー
ブランドの価値を高めます。
2. 全社員の心を込めた仕事を通じて、品質保証体制を
確立し、お客様の信頼と満足を得ます。
3. 品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、
要求事項への適合に努め、競争力のある強靱な企業と
なります。

胎動

1946~1969
(昭和21年~昭和44年)

1946年(昭和21年) 木ねじ専門問屋として創業
1948年(昭和23年) 三興鉄螺株式会社設立
1967年(昭和42年) 奥山泰弘(現社長)入社
1968年(昭和43年) 売上高5億円突破



創業の地、現在はサンコーインダストリー北支店

戦後間もない1946年、サンコーインダストリーの前身である裕興金属営業所が産声をあげます。創業者であり、初代社長の奥山好太郎が、現在の北支店がある大阪市北区末広町で、ねじやくぎ、ショベルヤスコップなどを扱う店舗を構えます。商売は、戦後の復興と軌を一にして順調なスタートを切りました。こうして1948年、三興鉄螺株式会社誕生。商品を木ねじに集中させ、「ねじのサンコー」として60年の道のりを歩み始めます。くぎではなく、ねじに特化したのは、仕入ルートが確保でき、堅実で安定した商いができるなどの理由からでした。この頃、木造建築などが活況を呈し、商売は軌道に乗り、会社を大阪市南区(現中央区)安堂寺町通りに移転します。界隈は大阪の都心にあつて、機械工具の商社や卸問屋が並び、この地で本格的に鉄螺業界に進出しました。経理に明るい奥山好太郎は、利益の社外流出を極力抑え、利益は全て商品在庫に替え、品揃えの充実を図りました。

1955年は神武景気、1959年は岩戸景気、1966年はいざなぎ景気と呼ばれ、日本の復興は目覚しく、ひたすら高度経済成長を続ける中で、三興鉄螺は着実に業績を伸ばしました。発足以来、サンコーに息づいているのが「和」の精神です。得意先や仕入先、そして社員同士が相手の視線や立場になってお互いを思う気持ちを、誰もが何よりも大切にしています。1967年、現社長である奥山泰弘が入社。主に仕入れ業務を担当し、取引先の開拓に奔走し、木ねじに加え、小ねじやタッピンねじなど取扱品目を広げます。1968年、日本は資本主義国で二番目の経済力を持つ国に。この頃、三興鉄螺も次なる飛躍の節目を迎えます。

column



創業者、奥山好太郎の経歴

1908年(明治41年)生まれ。戦前、神戸製鋼所尼崎工場入社。ねじに会う。鉄螺部長を経て、戦後、裕興金属営業所、三興鉄螺株式会社を設立。サンコーの起業と、業界の発展に尽力。1991年(平成3年)逝去。学者肌の経営者だったと大鉄協の記事で追想されています。

1948年(昭和23年) 三興鉄螺社長に就任
1971年(昭和46年) 大阪鉄螺卸協同組合 副理事長に就任
1978年(昭和53年) 三興鉄螺会長に就任
1979年(昭和54年) 大阪鉄螺協同組合 理事長に就任
1990年(平成2年) 勲5等瑞宝賞の叙勲を賜る
1991年(平成3年) 従6位の位階を賜る

三興鉄螺の由来

サンコーインダストリーの旧社名です。三興とは、お客様と仕入先とサンコーの3者(3社)が共に興る「さかんになる」、つまり共に栄えることを意味して名付けられました。ちなみに鉄螺の、鉄は「突ったもの」、螺は「巻いたもの」で、ねじは昔から「びょうら」と呼ばれてきました。



三興鉄螺株式会社

【日本と世界で起きたニュースやできごと】

1947年(昭和22年) 5月 日本国憲法施行
1949年(昭和24年) 10月 湯川秀樹博士、日本初のノーベル賞受賞
1951年(昭和26年) 9月 日米安保条約締結
1953年(昭和28年) 2月 NHKがテレビ放送を開始
1957年(昭和32年) 1月 南極大陸に昭和基地を設ける
1958年(昭和33年) 12月 東京タワー完成
1960年(昭和35年) 1月 新安全保険条約に調印
1964年(昭和39年) 10月 東京一大阪間、東海道新幹線が開通
アジア初の東京オリンピック開催
1966年(昭和41年) 6月 ゼーベールズ車日
1968年(昭和44年) 7月 アポロ11号が月面着陸に成功



【この年の流行や世相】

46●アッソー/鉄のカーテン/泣く女小唄
47●朝日新聞/63新/集団員会
48●おいらの立/アロハシャツ/ノルマ
49●現金入り/駅弁大学/自転車乗車
50●特需/レッドパーズ/全業-赤旗
51●逆コース/パチンコ/BS
52●お茶/火災報/空飛ぶ円盤
53●プラスアルファ/街頭テレビ/マンボ
54●死の灰/電気洗濯機/お富さん
55●春闘/特需景気/三種の神器
56●太陽旗/もはや戦後ではない/ケセラセラ
57●ストレス/なべ底不況/有楽町で逢いましょう
58●団地族/ご清平ご清平/フラワーブ
59●岩戸景気/消費は美徳/黒い花びら
60●ナンセンス/所得倍増/タッコちゃん
61●レジャー/マイカー/上を向いて歩こう
62●人づくり/ツイスト/可愛いベイビー
63●バカンス/三ちゃん農業/ごんには赤ちゃん
64●CL/ウルトラマン/金の卵
65●期待される人間性/モンキーダンス/黒
66●いざなぎ景気/おそらくん/マッチポンプ
67●ミニ/高層/大きいことはいいことだ
68●3C時代/昭和元禄/ハレンチ
69●ベトナム/オーモレーブ/黒ネコのタンゴ



進展

1970~1980

(昭和45年~昭和55年)

- 1970年(昭和45年) 立売堀に本社社屋完成
- 1973年(昭和48年) 売上高10億円突破
- 1977年(昭和52年) 大阪中小企業投資育成株式会社より
優良企業と認定され投資を受ける
- 1978年(昭和53年) 奥山泰弘が代表取締役社長に就任
- 1980年(昭和55年) 売上高30億円突破



三興鉄螺時代の本社(立売堀)

大阪市西区の新町や立売堀(いたちぼり)は、鉄鋼、金属、機械の間屋街が立地。船場の織維と並び、大阪の双璧を成す産業として発展してきました。大阪万博が開催された1970年、三興鉄螺は、会社を現在の本社所在地である立売堀一丁目に移します。340坪の土地に鉄筋2階建ての事務所を構えました。木ねじ間屋から脱皮し、あらゆるねじの商社へ羽ばたくための新天地でした。奥山泰弘は入社と同時に、自ら志望して倉庫業務に従事し、当時重さが30~40kgあるねじの入ったパッキンケースを担ぎ、丈夫な作業服の肩部がすぐ擦り切れてしまう重労働に、「この作業は何とかなければならない。人はもっと創造的な仕事をするべきだ」と考え続けてきました。まず、本社の近くに120坪の土地を購入し、自動立体倉庫を建設。ロジスティクス(物流を合理化する)の第1歩を踏み出します。

71年のニクソン・ショック、73年の石油ショックは、未曾有の躍進を遂げてきた日本経済にとって大きな打撃となり、75年には前年度のGNPが戦後初めてマイナス成長だったと発表されます。サンコーも、74年には売上高が25億円近くに達しますが、好況の反落で、75年、76年と連続して落ち込み、創立以来の逆境に立たされます。そこで発想を転換し、「ピンチはチャンス」の芽と、売上停滞により過剰となった在庫商品の半分をメッキ付き商品として在庫しました。当時、メッキ加工は受注して中3日はかかっていたので、メッキ付きねじの即納はお客様のニーズに合致し、「メッキ付きならサンコー」と当社のヒット商品となり、ピンチを切り抜けるばかりか、サクセスストーリーとしてサンコーの社史に1ページを刻みます。

column



奥山泰弘の人物像

現社長の奥山泰弘については語るまでもありません。幼少時は「なんで、なんで」と、とにかく何であれ質問をする好奇心と探究心が旺盛だったとか。1967年に三興鉄螺に入社。仕入れ担当だったこともあり、商品の強化、充実のため、本社併設の倉庫に寝泊りすることもありました。お客様のニーズにこたえ、社員の労力や負担をやわらげる、73年の立体自動倉庫の建設は、サンコーが以後、IT化、物流化を進めるうえで、とても大事な最初の一步を刻んだと振り返ります。

●この頃の売上高の推移と業務の拡充

1968年	5億円
1970年	本社立売堀進出
1973年	立体自動倉庫建設
1973年	10億円
1974年	24.5億円
1975年	15億円
	業界初のメッキ付き ねじの在庫
1976年	15億円
1980年	30億円



革新

1981~1995

(昭和56年~平成7年)

- 1981年(昭和56年) コンピューター導入。
在庫全商品コンピューター管理実施
- 1987年(昭和62年) 売上高50億円突破
- 1989年(平成元年) 東大阪に物流センターを開設
オンラインシステムスタート
- 1990年(平成2年) 東京営業所開設



東大阪物流センター開設時

1978年に社長に就任した奥山泰弘は、常に「サンコーにしかできないことは何であるか」、企業としての獨創性を探ってきました。当時のオフィスコンピューターは、ほとんど経理業務にしか用いられていませんでしたが、そんな中、1981年に在庫全商品のリアルタイムコンピューター管理を実現させます。翌82年、本社に業界初の立体無人倉庫(ロボット倉庫)を建設。業界に先駆けたコンピューターの導入や、物流環境の整備・活用は着目され、83年に日本経済新聞社の「全国先端事業所百選」に選ばれます。この頃、最前線で活躍する社員の意見やアイデアを業務や経営に反映する「TQC活動」がスタートします。活動は途切れることなく継続され、TQCは今や、サンコーの企業文化として定着するまでになりました。

1980年代後半から1990年代初頭にかけて、日本経済は空前の好景気を迎えます。いわゆるバブル景気です。そんな中、サンコーの革新的な取り組みが続きます。それは、当時の売上高50億円の半分近くを物流センターの建設に投資するという、まさに社運をかけた一大事業と言えるものでした。社長の奥山泰弘も、これまでの人生で最大の決断だったと追懐します。「平成」が幕開けした1989年、東大阪物流センターが完成。以後、最新で最適な機器やシステムを充実、強化させ、サンコー自慢のロジスティクスの拠点として整備が図られます。1990年から事業発展計画発表会を開催。94年には、社員持株会が発足。こうして経営の参画や利益の還元を制度や行事として採り入れています。

column

●東大阪物流センター建設の経緯

- 1986年(昭和61年) 東大阪本北に用地購入
- 1987年(昭和62年) 東大阪本庄西に用地購入
- 1988年(昭和63年) 東大阪営業所ビル建設着工
- 1989年(平成元年) 東大阪物流センター、東大阪営業所開設
(東大阪物流センター1号館完成。オンラインシステムスタート)
- 1992年(平成4年) 東大阪物流センター第2期工事完成
(自動倉庫完成。バーコードによる53万ケース無人管理立体自動倉庫)
- 1999年(平成11年) 東大阪物流センター2号館完成
- 2000年(平成12年) 東大阪物流センター新システム開始(バーコード種品システム他)
- 2004年(平成16年) 東大阪物流センター3号館完成
- 2006年(平成18年) 東大阪第2物流センター用地取得(パレット自動倉庫建設を決定)
- 2007年(平成19年) パレット自動倉庫竣工
- 2007年(平成19年) 商品コード12桁より18桁に移行



1994年 第23回TQC成果発表会

【日本と世界で起きたニュースやできごと】

- 1970年(昭和45年) 3月 アジア初の日本万国博覧会エキスポ70開幕
- 1971年(昭和46年) 7月 日本マクドナルド、第1号店開店
- 1972年(昭和47年) 2月 札幌冬季オリンピック開催
- 5月 沖縄、海防施設返還と沖縄返還が発足
- 1973年(昭和48年) 10月 第4次中東戦争勃発、石油ショック
- 1975年(昭和49年) 3月 前年度のGNPが戦後初めてマイナス成長だったと発表
- 1978年(昭和53年) 5月 成田に新東京国際空港が開港
- 1979年(昭和54年) 6月 アジア初の主要先進国首脳会議、東京サミット開催
- 1980年(昭和55年) 7月 モスクワ五輪開催、日本など不参加。
- 9月 イラン・イラク戦争



【この年の流行や世相】

- 70●光化学スモッグ/ウー・マンリブ/活字離れ
- 71●桜サラ/ギョーリング/アソビ隊
- 72●河島改造/ヘンション/ごみ戦争
- 73●日本沈没/狂乱物騒/しらけ
- 74●暴走族/ゼロ成長/総能力
- 75●グリーン/複合汚染/おちこぼれ
- 76●中流/ニューファミリー/灰色高官
- 77●密着族/円高不況/カラオケ
- 78●格闘魂/サラ金地獄/ダイヤ
- 79●ウサギ小屋/省エネ/ファンタジー
- 81●とらばーち/カラスの勝手/校内暴力

【日本と世界で起きたニュースやできごと】

- 1981年(昭和56年) 3月 神戸ポートアイランド博覧会、ポートピア81開幕
- 1983年(昭和58年) 4月 東京ディズニーランド開園
- 1985年(昭和60年) 3月 科学万博、つくば博開幕
- 4月 日本電信電話公社が日本電信電話株式会社(NTT)に
- 1986年(昭和61年) 5月 イギリス、チャールズ皇太子とダイアナ妃が東日
- 1987年(昭和62年) 4月 国鉄が分割、民営化されJR各社が発足
- 1989年(平成元年) 1月 昭和天皇即位、新元号「平成」に。
- 4月 消費税3%導入
- 11月 ヘルシンキの暴動
- 1991年(平成3年) 1月 多国露軍、イラク攻撃(湾岸戦争)を開始
- 1993年(平成5年) 5月 ジョーグ開幕
- 1994年(平成6年) 9月 関西国際空港開港
- 1995年(平成7年) 1月 阪神・淡路大震災



【この年の流行や世相】

- 81●軽薄短小/クリスタル族/おリッ子
- 82●フルムーン/ナンセンス/心身症
- 83●おしん/気配り/ローヤス
- 84●財テク/マル金・マルビ/単身赴任
- 85●新人類/花金/パフォーマンス
- 86●突進/ブルネ/地上げ
- 87●マルサ/世紀末/ドライ
- 88●自棄/フロンタス/激怒の昭和
- 89●セウハラ/ケジメ/ヘルマンの髪
- 90●ファジー/バブル経済/アッシーくん
- 91●損失補填/地球にやさしい/若貴
- 92●おんさん・ざんさん/はめ殺し/生産さん
- 93●規制緩和/清貴/イエローカード
- 94●橋樑破壊/リストラ/空同化
- 95●安全神話/官官維持/ゴアする

創造

1996~2007

(平成8年~平成19年)

- 1996年(平成8年) サンコーインダストリー株式会社に社名変更
- 1999年(平成11年) コンピューターリニューアル
オフコンのオープン化を実現
- 2000年(平成12年) 東大阪物流センター新システム開始
(バーコード検品システム他)
- 2001年(平成13年) 売上高100億円突破
- 2005年(平成17年) コンピューターリニューアル
基幹業務及び各部門の末端業務全般を
18のサーバーで処理と管理を行う
- 2006年(平成18年) 創業60周年
- 2007年(平成19年) 第一回大阪府経営合理化大賞受賞



サンコーインダストリー本社

守り、伝えていくもの。拓き、変えていくもの。それは企業が継続、進展するため大切にしなければならないものです。1996年、三興鉄螺からサンコーインダストリーへ社名を変更します。愛着ある三興をカタカナにし、産業や工業を意味するインダストリーと組み合わせました。それは当時(もちろん今日も)、ITと物流を総合的に一体化した、業界トップのシステムやネットワークを有するエネルギーなサンコーにふさわしいものでした。しかし、サンコーのそれは新しいだけのものではありません。IT化やロジスティクス、そこにはいつも、社員を創造的に導くものでなければならないという思いや願いが満ち溢れています。

1999年と2005年に、コンピューターの大きなリニューアルを実施。それ以後も、本社や営業所、物流センターなど、経営や業務の様々な場面で、機器やシステムのレベルアップやスケールアップをごく日常的に行っています。近年、サンコーのこうした取り組みが広く高く評価されます。2001年と2005年の二度にわたって、「関西IT活用企業百撰」の最優秀賞を受賞。2007年には、「第一回大阪府経営合理化大賞」に選定されました。IT化や合理化が、企業の発展における当然のテーマとなった昨今、業界のリーディングカンパニーであり続けることが、これからのサンコーの課題であり、目標であるといえるでしょう。

column

- CI導入
- SUNとは太陽です
- COとは共存共栄(=co-prosperity)です
- Industryは産業、工業です
- [ブラック色]信頼と誠意を表します
- [レッド色]発展と情熱を表します

■ロゴタイプ
サンコーインダストリー株式会社
SUNCO INDUSTRIES CO.,LTD

■シンボルマーク
SUNCO

■キャラクターマーク
"サンキュートリオ"
Quality=ハイクオリティ(商品・サービス)
Quick=迅速、すばやい対応
Quest=追求、探求

Quality Quick Quest

●企業表彰の受賞歴

- 1983年(昭和58年) 日本経済新聞社「全国先端事業所百選」
- 2001年(平成13年) 関西IT活用企業百撰最優秀賞受賞
- 2002年(平成14年) 全国中小企業研究センター賞 全国表彰受賞
- 2005年(平成17年) 関西IT活用企業百撰最優秀賞 2度目の受賞
- 2005年(平成17年) 近畿産業局長賞受賞
- 2005年(平成17年) IT経営百撰最優秀賞受賞
- 2007年(平成19年) 第一回大阪府経営合理化大賞受賞



●コンピューターリニューアルの変遷

- 1999年(平成11年) NEC Express/5800/690ADによる
オフコンのオープン化を実現
- 2005年(平成17年) NEC Express/5800/690XIIによる
基幹業務及び各部門の末端業務全般を
18のサーバーで処理と管理を行う

【日本と世界で起きたニュースやできごと】

- 1997年(平成9年) 4月 消費税5%に
- 1998年(平成10年) 2月 長野オリンピック開催
- 2000年(平成11年) 1月 コンピューター「2000年問題」影響なし
- 2001年(平成12年) 3月 ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)がオープン
- 4月 小倉内閣が発足
- 9月 米国同時多発テロ
- 2003年(平成15年) 9月 阪神タイガースが18年ぶりリーグ優勝
- 2005年(平成17年) 2月 中部国際空港開港
- 3月 愛知万博、「愛・地球博」が開幕
- 4月 JR福知山線脱線事故
- 2007年(平成19年) 8月 米露、サブプライム問題で株式市場暴落
- 9月 安倍首相が退陣、福田首相



【この年の流行や世相】

- 96●援助交際 / イメージドラマ / チョコレタ
- 97●失楽園 / バラック / ビッグバン
- 98●貸し流し / 冷めたヒザ / だっちゃん
- 99●フットボール / 陸軍機 / リベンジ
- 00●IT革命 / おっぱい / Q5ちゃん
- 01●聖域なき改革 / 明日があるさ / 狂牛病
- 02●W杯 / 貸し流し / 内部告発
- 03●マニフェスト / 霧まじゅう / なんでもろう
- 04●サプライズ / 自己責任 / 冬ソナ
- 05●理想内・想定外 / 刺客 / クールビズ
- 06●格差社会 / 脳トレ / メタボ
- 07●KY / 養生 / どげんかせんといかん

初心

2008~20XX

(平成20年~平成XX年)

- 2008年(平成20年) 創立60周年
60周年記念パーティー開催(東京・大阪)
60周年記念スポーツ大会開催
売上高200億円突破(目標)
- 2009年(平成21年) サンコーロジスティクスセンター(仮称)
完成予定



東大阪物流センター

2008年3月6日、サンコーは創立60周年を迎えました。平成大不況は回復をしたものの、好況感のない景気が、依然日本経済を覆っています。浮き足立つのではなく、今一度初心に戻り、驕ることなく、兜の緒を締めたいものです。この創立60周年という節目の年に、東京・大阪で記念パーティーを催し、京セラドームにおいては、社員とその家族による記念スポーツ大会も開催。社員が一丸となって夢や目標を追いかけ、みんなでその達成感や喜びを分かち合う、サンコーにはそんな企業風土があります。例えば、売上高が100億円を突破した2001年にハワイへ、2006年創業60周年(創立58年)を迎えたときにはシンガポールへ、社員全員で海外旅行に出かけました。

さて、サンコーはすでに次なるチャレンジに向かっていきます。そのひとつが、東大阪に新設するサンコーロジスティクスセンター(仮称)です。現在の物流センターをさらに進化させた「人にやさしいIT」の一大拠点がまもなく全貌を現します。昨今、環境経営にも力を入れ、「地球にそろそろ恩返し」をスローガンに、エコロジーをできることから始めています。そして何よりも、社員がより生きがいを、より働き甲斐を実感できる企業を目指しています。社員ひとり一人の創造力や可能性を、これまで以上に伸ばし、お客様から存在を求められる企業であるために今、輝かしい未来へ向けてスタートします。

column

●サンコーロジスティクスセンター(仮称)について

コンセプトは、ピッキングと荷揃えの自動化。荷づくりと梱包に特化した新たな物流センターです。これまでスタッフが効率的に行ってきたことを、さらに無人化・省人化することができます。2009年完成の予定で、現在の物流センターと合わせて、サンコーの物流体制が一段とパワーアップします。



サンコーロジスティクスセンター(仮称)完成予想パース



東大阪物流センターに新設したパレット自動倉庫

【日本と世界で起きたニュースやできごと】

- 2008年(平成20年) 8月 北京オリンピック開催
- 11月 米国、大統領選挙
- 2009年(平成21年) 3月 ワールド・ベースボールクラシック開催
- 2010年(平成22年) 5月 上海万国博覧会開催
- 6月 ワールドカップ南アフリカ大会開催
- 2011年(平成23年) 3月 東日本大震災発生
- 2012年(平成24年) ロンドン五輪開催
- ドバイで世界一のアーチを持つ橋完成予定
- 2025年(平成37年) リニアモーターカー開通予定



初

サンコーインダストリー 60年史



- 1946年(昭和21年) 4月 創業。木ねじ専門問屋裕興金属営業所を大阪市北区末広町に開設。
- 1948年(昭和23年) 3月 創立。三興鋸螺株式会社を大阪市中央区安堂寺町に設立。
- 1967年(昭和42年) 1月 奥山泰弘(現社長)入社
- 1968年(昭和43年) 2月 売上高5億円突破
- 1970年(昭和45年) 3月 本社社屋(大阪市西区)完成し、立売場に進出。
- 1971年(昭和46年) 4月 奥山泰弘が専務取締役役に就任。
- 1973年(昭和48年) 2月 売上高10億円突破
- 8月 立売場に高層立体倉庫(流通センター)を新築
- 1974年(昭和49年) 2月 売上高24.5億円に
- 1975年(昭和50年) 3月 業界で初めてメッキ付きねじの在庫開始
- 1976年(昭和51年) 3月 新学卒採用開始
- 1977年(昭和52年) 10月 大阪中小企業投資育成株より優良企業と認定され投資を受ける
- 1978年(昭和53年) 12月 奥山泰弘が代表取締役社長に
- 1980年(昭和55年) 2月 売上高30億円突破
- 1981年(昭和56年) 8月 コンピューター導入。在庫全商品コンピューター管理実施
- 1982年(昭和57年) 11月 無人立体倉庫(ロボット倉庫)建設
- 1983年(昭和58年) 1月 TQC活動開始
- 1月 包装センター完成
- 10月 日本経済新聞社より、全国先端事業所百選に選ばれ表彰を受ける
- 11月 テレビ朝日、「明日の経営」全国ネットにて放映
- 1986年(昭和61年) 6月 東京出張所開設
- 1987年(昭和62年) 2月 売上高50億円突破
- 1989年(平成元年) 5月 東大阪市本庄西に東大阪営業所、物流センターを開設。
物流システムの近代化・合理化を図る
- 1990年(平成2年) 2月 東京営業所開設
- 4月 第1回事業発展計画発表会
- 1992年(平成4年) 4月 東大阪物流センター第2期工事完成
バーコードシステムによる無人管理倉庫を建設
- 1994年(平成6年) 3月 社員持株会発足
- 1996年(平成8年) 1月 サンコーインダストリー株式会社に社名変更/3匹のペンギン誕生
- 3月 ねじのカタログ第1号発刊
- 1997年(平成9年) 4月 業界で初めてCD-ROM電子カタログを発行
- 8月 自社サーバー・スターオフィスの運用開始
- 1999年(平成11年) 3月 コンピューターリニューアルNEC Express/5800/690AD による
オフコンのオープン化を実現
- 8月 東大阪物流センター2号館完成
- 8月 インターネットによる受発注システムを構築
- 2000年(平成12年) 9月 東大阪物流センター新システム開始(バーコード検品システム他)
- 2001年(平成13年) 2月 売上高100億円突破
- 4月 全社員でハワイ旅行
- 9月 増資 資本金197,850千円
- 12月 関西IT活用企業百選最優秀賞受賞
- 2002年(平成14年) 1月 全国中小企業研究センター賞 全国表彰受賞
- 11月 2画面パソコン導入
- 2004年(平成16年) 4月 東大阪物流センター3号館増設
- 4月 再び全社員でハワイ旅行
- 2005年(平成17年) 3月 関西IT活用企業百選最優秀賞 2度目の受賞
- 3月 近畿産業局長賞受賞
- 5月 経済産業省奨励IT経営百選最優秀賞受賞
- 6月 コンピューターシステムリニューアルNEC Express/5800/690XI
基幹業務及び各部門の末端業務全般を18のサーバーで処理と管理を行う
- 2006年(平成18年) 2月 ISO9001認証登録 登録番号:JQ2757A
- 4月 創業60周年
- 4月 全社員でシンガポール旅行
- 8月 ペンギンロボット製作 NHKで放映
- 10月 東大阪市本庄西に自動倉庫の建設を決定
- 2007年(平成19年) 1月 ISO14001認証登録 登録番号:JE0740A
- 5月 男女いきいき元氣宣言事業者に登録
- 9月 パレット自動倉庫建設/第一回大阪府経営合理化大賞受賞
- 10月 商品コード12桁より18桁に移行
- 2008年(平成20年) 3月 両立支援シンポジウムにて取組事例発表を行う
創立60周年
売上高200億円突破(目標)
60周年記念パーティー開催(東京・大阪)
60周年スポーツ大会開催
サンコーロジスティクスセンター(仮称)新設予定
- 20XX年

メッセージ

一人ひとりの頑張りで、
60周年を迎えることが
できました。



2008年3月6日、サンコーインダストリーは創立60周年を迎えました。社員一人ひとりの日々の頑張り感謝の気持ちでいっぱいです。みんながいるからこそ、今のサンコーが存在するのだと心から思っています。そして早くも、70周年も心地よい気持ちで迎えたいと考えています。1年先、5年先、そして10年先も幸せで清々しい思いで過ごすために、今、何をしなければならないのかをみんなで考え、行動していきましょう。

私自身、会社としてサンコーという「チーム」は、非常にまとまりがあり、「チーム」のカラーもほぼ理想的であると感じています。これからも楽しく愉快にそして大いに仕事に精を出してもらおうつもりです。「おもしろおかしな」中から活力が生まれ、サンコーの明日と未来が拓かれると信じています。私の役割は、社員がもっと生きがい、働きがいを感じる、より魅力的な会社に輝かせることです。さあ70周年、80周年に向かって、初心と感謝の気持ちを忘れず、笑顔を絶やさずに走り続けましょう。

サンコーインダストリー株式会社

代表取締役社長 奥山泰弘

